

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000715	事業の開始年月日	平成31年4月1日
		指定年月日	平成31年4月1日
法人名	有限会社スマイル介護サービス		
事業所名	スマイル汲沢の家		
所在地	(〒245-0062) 神奈川県横浜市戸塚区汲沢1050-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	http://center.rakuraku.or.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年来コロナ禍にあり、近隣の方との交流や、外部の方をお呼びしてのイベントができずにおります。
ご家族様との面会も長い期間停止を余儀なくされ、一時期再開したものの、現在は再びご遠慮いただいています。
そのような厳しい状況下でも、ご利用の皆様が少しでも楽しくお過ごしいただけるよう、スタッフが心を尽くして、施設内でのイベント・レクリエーションなど開催しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
書類調査月	令和3年3月	評価機関 評価決定日	令和3年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇スタッフ間の連携が良く取れている
・開所2年目を迎え、利用者、スタッフが共にも増えており、スタッフ間では、業務改善への関心が高くなっている。職員各位が、気付いたことを「申し送りノート」に記載して共有に努めている。
・開所当初からの利用者には、入所前から系列の通所施設で関わりのあった職員が多く、利用者の生活歴や趣向などを詳細に把握しており、他のスタッフと情報を共有するように努めている。

【事業所が工夫している点】

◇事業所に合った生活様式の工夫
・2ユニットある事業所は、建屋の構造上リビングが隣接しており、それぞれのユニットでの活動のほか、2ユニットの利用者全員が一堂に会して、レクに参加することができ、日常生活面では事業所の特徴を生かした生活様式の工夫がなされている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	スマイル汲沢の家1階
ユニット名	ブルー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに ○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている ○ 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と3階共有スペースの目の届く場所に掲示しています。各スタッフが理念の書かれているパンフレットを所持しており、朝の申し送り時に唱和しています。	・理念の「利用者の困っていること、望んでいることを、利用者の立場に立って解決する」に沿って、利用者の生活歴、趣味、嗜好について理解を深めるよう努め、利用者の「もう一つの我が家」を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、地域との交流はできていません。地域の一員であることの表現として、建物周囲の美化清掃には特に注意をしています。	・自治会への加入は、課題となっているが、コロナ禍のため交渉が進んでいない。 ・プロのバイオリニストの演奏会には、近隣の住民にも声掛けしており、他に太極拳のボランティアの訪問もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	い		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方の出席をお願いできないため、推進会議も開催を見送らせていただいています。報告書を作成する折に、スタッフ間で改めて2か月の振り返りを行っています。	・運営推進会議が、開催できないので、推進会議のメンバーには、書面にて事業所の現状を報告している。 ・活動報告は、職員と利用者のみのでクリスマス会、正月のスタによる日舞の様子を写真付きで行った。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	未開催ではありますが、2か月に一度、報告書を送り事業所の実情・取組みをお知らせしています。生活保護のご利用者様がいらっしゃるのので、生活支援課の担当者とも緊密に連携しています。	・高齢・障害支援課とは介護保険の更新手続きなどで交流がある。生活支援課とは、生活保護費受給者の入退院他医療関係、死亡時の事務処理などで連絡し助言を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの不審者の侵入の心配もあり、玄関と各階の入り口は安全対策として施錠しています。 法人全体で身体拘束をしないケアの実践を常に考え、意識し、学び、自己評価を繰り返し行っています。	・「身体拘束禁止委員会」を設置して毎月開催し、スタッフ会議で内容の報告をするとともに、関連する研修を行っている。 ・安全を求める職員には、事業者内での事例を説明し、拘束を行わないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修のテーマとして取り組み、虐待防止法を理解しています。精神的な苦痛への配慮を理解し、カンファレンス時などに共通認識を持つよう努めています。 声掛けの仕方・言葉使いなど、再確認をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者様については、後見人・保佐人様と、生活保護受給の入居者様については、生活支援課担当者様と、情報交換を行い連携を取っています。 職員も理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人様やご家族様に見学をお願いしています。施設の雰囲気を実際に感じていただき、不安の軽減に努めています。契約時にも十分な時間をかけて説明し、疑問・質問にお答えし、納得を得た上で安心してご入所頂けるよう心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設けています。 面会制限中も、お電話にてご様子をお伝えする際にご家族様の意見・要望を伺っています。ご本人様のお気持ちは都度傾聴し、ケアプランにも反映しています。	・コロナ禍以前には、面会時に家族の意見・要望を聞いていたが、現在は、電話で、本人の様子をお伝えする際に伺っている。家族の要望で、一部の利用者に牛乳やヤクルトを提供をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ・管理者は常に話し合い、入居者様の状態の変化に対し業務の改善（対応の改善）により解決の方法を探ります。代表は都度報連相を受け対応しています。	・職員の意見や要望は申し送り時の聞き取りや、連絡ノートなどから収集している。 ・職員の提案で、一部の利用者に昼寝の時間を設けて、実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、代表との面談時に希望を伝えることができます。外部研修に参加する機会を得て、介護や認知症対応について知識を高めることができます。研修内容は、職員同士でも共有します。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動、排泄介助等の研修を行う際は、資料での説明よりも実践を重視しています。お一人での対応に不安のある職員には、ベテランの職員がついて指導し、スキルアップを図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を推奨する職場環境にはありますが、昨年来のコロナ禍で実施できないでいます。平時に戻りましたら積極的に交流を図りたいと考えています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、入居者様の生活歴やニーズを把握しています。ご入居前にいらした病院・施設・居宅のケアマネさんから情報をいただいています。ご入居後には、日々の会話の中でも不安なこと・ご要望等吸い上げるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時やご自宅を訪問した際に、ご家族様の要望・ニーズの聞き取りはもちろんのこと、ご家族様の利用者様に対する思い等も伺い、お気持ちに寄り添った対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や、入居者様・ご家族様それぞれが求めているものを理解し、その時に必要なニーズを把握するよう務めています。ホームではできないサービスについてもご案内しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には、人生の先輩として尊敬の念を忘れずに接しています。それぞれの得意分野においてはスタッフが教えを請いながら、共に活動をし、笑い合い、支え合うことができます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や、電話等により、ご様子を細かくお伝えし、ご家族様からはその時々のお思いや要望を伺い、援助に取り入れています。入居者様と一緒に支えていることを実感していただけるものと考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との面会はできませんが、お電話・お手紙等で交流いただいています。状況が許せば、以前からご利用の美容院等への付き添いも手配が可能です。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との話し合いで、本人の生活歴が伺えることがあり、ヒントを見つけて話題にすると、利用者には笑顔が出ることがある。 ・誕生日に家族と食事会をしたり、墓参に出かけた方もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格・関係性・お食事のとり方・レクレーションへの参加の様子など、様々な要因を考慮してテーブルでのお席の配置をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	許可が得られた場合にはご入院先に面会に行っています。 ご家族様に対しても、必要なフォローがあれば、引き続きご連絡を差し上げています。		
ごかぞ					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の要望に耳を傾け、一人一人の思いや希望を最優先にしたケアを心がけています。 困難な場面でも丁寧なお声がけを心がけ、スタッフ一人では難しいことは全職員で話し合い、より良い方法を模索し検討しています。	・利用者の様子を観察し、また、リビングでの交流時の話し合いや、居室に伺うことで利用者の思いや意向の把握に努めている。 ・先回りしすぎないように気をつけながら、職員から提案し、意見を吸い上げてみいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を詳細に把握します。在宅のケアマネージャーさん、全施設の相談員さん、入院先の看護師さん・相談員さんからも情報をいただいています。 ご家族様からは細かなこだわり等も聞き取りし支援に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様々な状況を丁寧に観察し、一人一人の能力・生活パターン、その日の心身の状態を正しく理解するよう努めています。 認知症が進行し、状態が定まらない方、ご高齢で体調の変化の大きい方については、特に注意をして小さい変化を見落とさずに全職員で情報を共有し対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には、本人や家族の希望を最優先に、ケアに関わっているスタッフからの情報・意見も取り入れています。 主治医・訪問の看護師・薬剤師等のアドバイスも参考にしています。	・介護計画の期間は1年間で、利用者に体調の変化があれば、都度見直している。 ・家族の意見はケアカンファレンスに合わせ、電話でお聞きしている。 ・モニタリングの結果は、日々の業務日誌に記載し、介護計画作成時に職員が報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、変化については業務日誌に記入しています。大きな変化等は申し送りノートにも記載に、職員間で共有・理解しケアに活かしています。これらの情報は計画の見直しの参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努めています。個々の生活史を尊重し、ケアプランに添いつつも場面ごとに柔軟な対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にあり、毎週金曜日の太極拳教室も中止になっています。本来の活動が可能になれば、よりこころ豊かに暮らせるように支援したいと考えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に確認の上、希望する病院にて受診しています。 往診医との契約の方、以前からのかかりつけ医を受診する方がいらっしゃいます。 緊急時には看護師の判断で主治医と連携しています。	・内科医は2週間に1回、歯科医は月1回の定期健診、訪問看護師が2週間に1回訪問している。 ・通院に介護ヘルパーを利用している利用者がある。通院後に診療結果を聞き取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、看護師が来訪し、バイタルチェック、状態の観察、問診・相談を行って全員の状態を把握しています。 常に連携を取り、緊急時には対応の指示・訪問しての処置をお願いします。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診のDR、看護師の指示で入院となった場合にも診療情報の提供等ご協力をお願いします。 入院先の病院とも連携し、退院へ向けての相談等行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応・延命について説明を行っており、特に救急搬送時に際に延命を希望されるかについては丁寧に聞き取りをしています。 実際に重症化された場合には、DRから直接ご家族様に状況を説明していただき、その後の方針を検討しています。	職員は、終末期のあり方の研修を受けているが、見解の統一は難しいと感じている。看取りの現場では、職員間で情報を頻繁に共有し介護にあたっている。利用者や家族に対し、終末期の説明をその都度行い、揺れる気持ちに寄り添うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修資料を取り入れ、マニュアルを基に繰り返し勉強しています。日頃不安に思うことは、職員同士で話し合い、学び合うことで納得できる用努力しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、防災訓練を行っています。 また、災害時の避難についてはマニュアルに添って、普段からイメージトレーニングを行っています。	・夜間想定を含め年2回の防災訓練を行っている。介護度が高く、車椅子を利用する利用者が多いため、職員はマニュアルに沿いシミュレーションを行っている。今後は隣接の老人施設と協力体制を築くことを考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格にも配慮し、個々に合わせた言葉かけや対応を心がけています。 スタッフに不適切な言葉遣いや態度が見られた時には、管理者から改めて尊厳についての意識を高めるよう伝えていきます。	・職員は、利用者が人生の先輩であること、「親しさ=フレンドリー」ではないことを念頭に言葉掛けや対応に努めている。 ・管理者は、職員の気なになる言動には、その場での注意に加え申し送りノートで、共有するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる入居者様には、職員が決めたことを押し付けることなく、ご自身で選んだり決めたりすることをゆっくりと待てるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、それぞれの意思・尊厳を保てるよう支援しています。状況に応じて、個別の対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みを尊重し、その人らしい身だしなみができるよう配慮しています。季節に応じた衣服選びのお手伝いもしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を話題にして会話を楽しみます。 テーブルを拭く、手指の消毒など、できる方にお手伝いいただいています。	・食事は職員が、利用者との会話を楽しむ機会としている。行事を意識した献立を届けてもらったり、購入してきたピザや握りずしなどで食事を楽しむことがある。 ・敬老の日には、皆でおはぎを作り楽しんだ。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な量を摂取できているか確認しています。咀嚼・嚥下力に合った食事形態を工夫し提供しています。とろみをつける、好きな味のものを提供するなど水分摂取量の確保をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施しています。夕食後には入れ歯の消毒も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間を記録することで、一人ひとりの排泄パターンを把握して個々にあった支援ができています。プライドを傷つけないように、トイレにお誘いする、おむつを交換する時などのお声掛けには十分配慮しています。	・利用者一人一人の排泄パターンや行動を把握して対応している。「ちょっと歩きましょう」「そろそろお手洗いにいきませんか」など利用者に配慮した声掛けを行い、歩行自立の利用者が排泄の自立も継続できるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分制限のない方には、水分摂取量が不足しないよう気を付けています。看護師の指導により、腹部マッサージや、保温などそれぞれに合った排泄支援を行っています。便秘の予防のためにも毎身体操を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインやご様子から体調を見極め、ご本人に納得していただくからお風呂場へご案内しています。お着替えを選ぶのが楽しみな方、入浴中におしゃべり、歌を楽しまれる方もいらっしゃいます。	・週2回の入浴を基本とし、入浴前には体温、血圧を測定し利用者の普段の数値と比較している。 ・本人の希望を聞き、身体の清拭、足湯など納得のいく清潔に努めている。入浴中職員は、利用者との会話を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	案してお休みいただけるような言葉かけを心がけています。室内の温度や照明を好みに合わせて調節しています。施設全体としても加湿器を用意していますが、個別に居室にもお持ちの方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と服薬、臨時に処方された薬はミスのないよう周知徹底しています。薬剤師により、それぞれ一包化・日付お名前等を記載していただいております、投薬ミスのないよう必ず二人以上で確認し、服用を確認したサインをしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換や、楽しみ・喜びにつながるように意識しながら、お得意なことができるようなレクリエーションの工夫をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍でご遠慮いただいておりますが、個別にご家族様とお出かけになったり、お食事に行かれたりすることも可能です。ご家族様の対応が困難な方には自費のヘルパーをご利用いただける契約をご案内しています。	・利用者の介護度が高かったり、施設の立地条件などから、日常的な散歩外出は難しくなっている。 ・ベランダから富士山を見ながら日光浴をするなど、事業所内で行うようにしている。	・利用者の身体機能維持のため、今後、外出の機会を増やすことが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の残存能力を見極め、必要に応じてお買い物の代行・付き添いを行っています。基本的には現金を預かることはしておらず、施設で立替、ご家族様へ請求の形を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お写真に最近のご様子を書き添えた「スマイル通信」を送り、お電話でお伝えしています。 ご希望に応じて電話をお使いいただけます。ご自分で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいます。 切手の購入・投函、も請け負います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節の花を生けたり、入居者様の作品を飾ったりしています。壁面には、季節の装飾を施し、折り紙・塗り絵・書道等の作品を飾っています。 温かみのある、居心地の良い空間づくりをしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が居室の清掃を毎日行っている。建物全体に24時間換気システムが導入され、事業所内は清潔な空間となっている。 ・壁面は季節ごとに、鯉のぼりの折り紙、夏祭りの絵やクリスマスツリーなどを飾り、温かみのある空間づくりをしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者様同士が集い、談話やテレビ鑑賞を楽しめます。 気の合う方同士で席を移られておしゃべりをする場面もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅から使い慣れた家具をお持ちいただいています。ご家族様からのお手紙・お写真など飾っていらっしゃいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内は使い慣れた家具や備品等が導線の邪魔にならないようにを配置している。清掃は職員が利用者の装飾品を壊さないよう元の場所に置き、また、飾る場所を確認し、利用者が心地よく過ごせるよう配慮している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、トイレやドアの目印、混乱するものの排除等、それぞれが安心して生活できるような環境づくりを心がけています。		

事業所名	スマイル汲沢の家
ユニット名	ピンク

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と3階共有スペースの目の届く場所に掲示しています。各スタッフが理念の書かれているパンフレットを所持しており、朝の申し送り時に唱和しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、地域との交流はできていません。地域の一員であることの表現として、建物周囲の美化清掃には特に注意をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流ができていないため、事業所としての貢献は難しいですが、スタッフはみな認知症対応のプロとして、街中でもお困りの方を見かけたらお声がけをする、知り合いの方の相談に乗る、など心がけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方の出席をお願いできないため、推進会議も開催を見送らせていただいています。報告書を作成する折に、スタッフ間で改めて2か月の振り返りを行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	未開催ではありますが、2か月に一度、報告書を送り事業所の実情・取組みをお知らせしています。生活保護のご利用者様が多くいらっしゃるので、生活支援課の担当者とも緊密に連携しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの不審者の侵入の心配もあり、玄関と各階の入り口は安全対策として施錠しています。 法人全体で身体拘束をしないケアの実践を常に考え、意識し、学び、自己評価を繰り返し行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修のテーマとして取り組み、虐待防止法を理解しています。精神的な苦痛への配慮を理解し、カンファレンス時などに共通認識を持つよう努めています。 声掛けの仕方・言葉使いなど、再確認をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者様については、後見人・保佐人様と、生活保護受給の入居者様については、生活支援課担当者様と、情報交換を行い連携を取っています。 職員も理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人様やご家族様に見学をお願いしています。施設の雰囲気を実際に感じていただき、不安の軽減に努めています。契約時にも十分な時間をかけて説明し、疑問・質問にお答えし、納得を得た上で安心してご入所頂けるよう心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設けています。面会制限中も、お電話にてご様子をお伝えする際にご家族様の意見・要望を伺っています。ご本人様のお気持ちは都度傾聴し、ケアプランにも反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ・管理者は常に話し合い、入居者様の状態の変化に対し業務の改善（対応の改善）により解決の方法を探ります。代表は都度報連相を受け対応しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、代表との面談時に希望を伝えることができます。外部研修に参加する機会を得て、介護や認知症対応について知識を高めることができます。研修内容は、職員同士でも共有します。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動、排泄介助等の研修を行う際は、資料での説明よりも実践を重視しています。お一人での対応に不安のある職員には、ベテランの職員がついて指導し、スキルアップを図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加を推奨する職場環境にはありますが、昨年来のコロナ禍で実施できないでいます。平時に戻りましたら積極的に交流を図りたいと考えています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、入居者様の生活歴やニーズを把握しています。ご入居前にいらした病院・施設・居宅のケアマネさんからも情報をいただいています。ご入居後には、日々の会話の中でも不安なこと・ご要望等吸い上げる努力をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時やご自宅を訪問した際に、ご家族様の要望・ニーズの聞き取りはもちろんのこと、ご家族様の利用者様に対する思い等も伺い、お気持ちに寄り添った対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や、入居者様・ご家族様それぞれが求めているものを理解し、その時に必要なニーズを把握するよう務めています。ホームではできないサービスについてもご案内しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には、人生の先輩として尊敬の念を忘れずに接しています。それぞれの得意分野においてはスタッフが教えを請いながら、共に活動をし、笑い合い、支え合うことができます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や、電話等により、ご様子を細かくお伝えし、ご家族様からはその時々のお思いや要望を伺い、援助に取り入れています。入居者様と一緒に支えていることを実感していただけるものと考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との面会はできませんが、お電話・お手紙等で交流いただいています。状況が許せば、以前からご利用の美容院等への付き添いも手配が可能です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格・関係性・お食事のとり方・レクレーションへの参加の様子など、様々な要因を考慮してテーブルでのお席の配置をしています。場面ごとに席を移動することもあります。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	許可が得られた場合にはご入院先に面会に行っています。ご家族様に対しても、必要なフォローがあれば、引き続きご連絡を差し上げています。		
ごかぞ					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の要望に耳を傾け、一人一人の思いや希望を最優先にしたケアを心がけています。困難な場面でも丁寧なお声がけを心がけ、スタッフ一人では難しいことは全職員で話し合い、より良い方法を模索し検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を詳細に把握します。在宅のケアマネージャーさん、全施設の相談員さん、入院先の看護師さん・相談員さんからも情報をいただいています。ご家族様からは細かなこだわり等も聞き取りし支援に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様々な状況を丁寧に観察し、一人ひとりの能力・生活パターン、また、その日ごとの心身の状態を正しく理解するよう努めています。認知症が進行し、状態が定まらない方、ご高齢で体調の変化の大きい方については、特に注意をして小さい変化を見落とさずに全職員で情報を共有し対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には、本人や家族の希望を最優先に、ケアに関わっているスタッフからの情報・意見も取り入れています。 主治医・訪問の看護師・薬剤師等のアドバイスも参考にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、変化については業務日誌に記入しています。大きな変化等は申し送りノートにも記載に、職員間で共有・理解しケアに活かしています。これらの情報は計画の見直しの参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努めています。個々の生活史を尊重し、ケアプランに添いつつも場面ごとに柔軟な対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にあり、毎週金曜日の太極拳教室も中止になっています。 本来の活動が可能になれば、よりこころ豊かに暮らせるように支援したいと考えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に確認の上、希望する病院にて受診しています。 往診医との契約の方、以前からのかかりつけ医を受診する方がいらっしゃいます。 緊急時には看護師の判断で主治医と連携しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、看護師が来訪し、バイタルチェック、状態の観察、問診・相談を行って全員の状態を把握しています。 常に連携を取り、緊急時には対応の指示・訪問しての処置をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診のDR、看護師の指示で入院となった場合にも診療情報の提供等ご協力をお願いしています。 入院先の病院とも連携し、退院へ向けての相談等行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応・延命についての説明を行っており、特に救急搬送時に際に延命を希望されるかについては丁寧に聞き取りをしています。 実際に重症化された場合には、DRから直接ご家族様に状況を説明していただき、その後の方針を検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修資料を取り入れ、マニュアルを基に繰り返し勉強しています。日頃不安に思うことは、職員同士で話し合い、学び合うことで納得できる用努力しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、防災訓練を行っています。 また、災害時の避難についてはマニュアルに添って、普段からイメージトレーニングを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格にも配慮し、個々に合わせた言葉かけや対応を心がけています。 スタッフに不適切な言葉遣いや態度が見られた時には、管理者から改めて尊厳についての意識を高めるよう伝えていきます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる入居者様には、職員が決めたことを押し付けることなく、ご自身で選んだり決めたりすることをゆっくりと待てるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、それぞれの意思・尊厳を保てるよう支援しています。状況に応じて、個別の対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みを尊重し、その人らしい身だしなみができるよう配慮しています。季節に応じた衣服選びのお手伝いもしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を話題にして会話を楽しみます。 テーブルを拭く、手指の消毒など、できる方にお手伝いいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な量を摂取できているか確認しています。咀嚼・嚥下力に合わせた食事形態を工夫して提供しています。とろみをつける、好きな味のものを提供するなどで水分摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施しています。夕食後には入れ歯の消毒も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間を記録することで、一人ひとりの排泄パターンを把握して個々にあった支援ができています。プライドを傷つけないように、トイレにお誘いする、おむつを交換する時などのお声掛けには十分配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分制限のない方には、水分摂取量が不足しないよう気を付けています。看護師の指導により、腹部マッサージや、保温などそれぞれに合った排泄支援を行っています。便秘の予防のためにも毎日体操を行っています。マグミット等の下剤も過剰にならないよう注意をしながら、必要に応じて使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインやご様子から体調を見極め、ご本人に納得していただくからお風呂場へご案内しています。お着替えを選ぶのが楽しみな方、入浴中におしゃべり、歌を楽しまれる方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	案してお休みいただけるような言葉がけを心がけています。室内の温度や照明を好みに合わせて調節しています。施設全体としても加湿器を用意していますが、個別に居室にもお持ちの方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と服薬、特に臨時に処方された薬はミスのないよう周知徹底しています。薬剤師さんにより、それぞれ一包化・日付お名前等を記載していただいております。投薬ミスのないよう必ず二人以上で確認し、服用を確認したサインをしています。また、日々の状態観察をし、医師・看護師に伝え、適正な処方につなげています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換や、楽しみ・喜びにつながるように意識しながら、お得意なことができるようなレクリエーションの工夫をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍でご遠慮いただいておりますが、個別にご家族様とお出かけになったり、お食事に行かれたりすることも可能です。ご家族様の対応が困難な方には自費のヘルパーをご利用いただける契約をご案内しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の残存能力を見極め、必要に応じてお買い物の代行・付き添いを行っています。基本的には現金を預かることはしておらず、施設で立替、ご家族様へ請求の形を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お写真に最近のご様子を書き添えた「スマイル通信」を送り、お電話でお伝えしています。 ご希望に応じて電話をお使いいただけます。ご自分で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいます。 切手の購入・投函、も請け負います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節の花を生けたり、入居者様の作品を飾ったりしています。壁面には、季節の装飾を施し、折り紙・塗り絵・書道等の作品を飾っています。 温かみのある、居心地の良い空間づくりをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者様同士が集い、談話やテレビ鑑賞を楽しめます。 気の合う方同士で席を移られておしゃべりをする場面もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅から使い慣れた家具をお持ちいただいています。ご家族様からのお手紙・お写真など飾っていらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、トイレやドアの目印、混乱するものの排除等、それぞれが安心して生活できるような環境づくりを心がけています。		

目標達成計画

事業所名 スマイル汲沢の家

作成日 令和3年 2月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・20	コロナ禍で、地域との関わりも、ご家族様との面会もできないでいる。	コロナが落ち着いたら、地域の方が気軽に訪ねてくださり、ご家族様がお好きなタイミングで遊びにいらっしゃれるオープンな施設でありたい。	ご家族様、地域の方をお招きする催しものの企画を考えたい。	1年
2	49	ご利用者様の身体能力、職員数がぎりぎりであることに加え、施設周辺の環境要因もあり、（車通りが多いこと、坂道が多いこと）外出がままならないこと。	車いすの方でも外出の機会が持てるようにしたい。	シフトに入っていないスタッフさんの応援をお願いして外出計画を立てる。少人数で車を利用して、安全な公園等にお連れする。	1年
3		同上	せめて施設敷地内でも外の空気に触れる場所を作りたい。	敷地裏手の空きスペースを整備して、花壇や菜園を作る。椅子なども設置する。	1・2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。